

至大荘が博物館で展示されています！！

至大荘を知らない九段生はほとんどいないと思いますが、神奈川県立歴史博物館（以下、県博）を知っている人は多くはないと思います。が、現在この博物館で至大荘にある遺跡が展示されているのです。

「洞窟遺跡を掘る ―海蝕洞窟の考古学―」

2022年4月29日（金・祝）～6月26日（日） 休館日：月曜日

この特別展は、県博が50年に亘って続けてきた海蝕洞窟（波によって崖面が削られて生じた洞窟、その後土地が隆起して形成された自然の洞窟）に過去の人々が利用した痕跡が残る遺跡の発掘調査の様子を紹介しています。海蝕洞窟遺跡は弥生時代から古墳時代の遺物が多く出土しますが、県博は三浦半島を中心に調査を進めてきました。三浦半島での海蝕洞窟遺跡の調査は1924年から始まりますので、約100年の歴史をもっていますが、今回はその集大成ともいえる展示になっています。

この特別展で、至大荘にある「こうもり穴」の発掘調査の様子が展示されています。こうもり穴は1924年、関東大震災後に発見され何度か発掘調査が行われてきました。最初の発見者は騎馬民族征服王朝説で有名な江上波夫氏。文化勲章も受賞され、古代オリエント博物館長を務め横浜ユーラシア文化館の開設に大きな功績を残した考古学の巨人ともいえる方です。こうもり穴は戦時中に人間魚雷の秘密基地に使われたこともありますが、本格的な調査は千葉大学文学部考古学研究室によって2000～2002年にかけて行われ、アワビなどの貝層の中から大量のシカの肩甲骨が見つかりました。これは「ト骨（ぼっこつ）」と呼ばれる占いに使われたものと考えられています。この他に、弥生土器片や焼土痕跡も発見されています。こうもり穴は、動物の骨を焼いて行われた「ト占（ぼくせん）」について重要な資料を提供している遺跡であると言えるようです。三浦半島には多く見られる海蝕洞窟遺跡ですが、至大荘こうもり穴は房総半島の貴重な遺跡なのです。

お時間ある方、興味のある方、今回の博物館展示を訪れてみてはいかがでしょうか。なお、博物館の旧館部分は旧横浜正金銀行の本店として1904年（明治37年）に建てられたネオ・バロック様式の建築で、国の重要文化財の指定を受けています。こちらも見どころの一つです。



特別展 こうもり穴洞窟遺跡の展示



神奈川県立歴史博物館旧館正面玄関

★ 次の資料でも、こうもり穴の調査や研究を知ることができます。

「特別展 洞窟遺跡を掘る ―海蝕洞窟の考古学―」 2022. 4. 28 神奈川県立博物館（図録）

「千葉県勝浦市 こうもり穴洞窟 第1次発掘調査概報」2002. 3. 29 千葉大学文学部考古学研究室

「館山湾の洞窟遺跡 館山市制施行70周年特別展図録」2010. 2. 6 館山市立博物館

「千葉県の歴史 資料編 考古2（弥生・古墳時代）」2003. 3. 25 千葉県史料研究財団

「シリーズ 遺跡を学ぶ142 海上世界のコスモロジー」2020. 3. 5 岡本東三

★この原稿を作成するにあたって、神奈川県立博物館主任学芸員 千葉 毅 氏からご教示をいただきました。記して感謝申し上げます。 長谷川友昭（高25）